

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016福島」への参加報告

リレー・フォー・ライフでは、がん告知を受けたことのある方を「サバイバー」と呼び、がんとともに生きる勇気を讃えます。サバイバーを支える家族・友人・医療関係者などの全てを「ケアギバー」と呼びます。

がん告知や治療を乗り越え、この日を迎えられたことを祝福し、同じ思いを胸に笑顔でみんなとともに歩くイベントです。

リレー・フォー・ライフの始まりはアメリカの医師が対がん協会の活動資金を集めようと大学のトラックを30分走るたびに25ドル寄付を集めるというものでした。その後多くの方に参加してもらおうとチームごとのリレー形式になりました。

2006年つくば市で試験的にはじまり2016年の今年は日本で始められ10年目の節目となります。

2015年は世界25カ国6000ヶ所、日本国内では47ヶ所で開催されました。

今年のリレー・フォー・ライフ・ジャパン2016福島はメイン会場を福島市の「とうほうみんなのスタジアム（県営あずま陸上競技場）」で第一回目以来の野外開催となりました。サテライト会場は福島医科大学附属病院と福島医科大学会津医療センターの各ロビーでイベントを開催しました。

9月10日（土）15:00に開会式、15:30からサバイバーズラップに始まり、翌日11日（日）11:45からラストウォーク、12:00の閉会式までの約20時間夜通しでリレーウォークが行われ、各種のイベントが開催されました。

県北支部会員20名が参加し、陸上競技場一周400mのトラックを他の41チームの皆さんとともにリレーウォークを行い、また中国結び体験コーナーを設置し参加者の皆様に寄付をお願いしました。

また、県北支部会員数名が開会式前の10:00から、また閉会後の14:00ごろまでボランティアとし準備と後片付けの活動も行いました。

イベントはバンド演奏、アカペラ、ダンスなどのほかに、《がん征圧に向けて～チームワークで支える「がんに負けない福島」》と題したパネルディスカッションが、福島県立医科大学乳腺外科教授の大竹徹先生をコーディネーターに腫瘍内科学講座主任教授の佐治重衡先生、小児腫瘍科教授の菊田敦先生、緩和ケアセンター長の松塚崇先生、がんピアネットふくしま理事長の鈴木牧子先生、わたり病院緩和ケア病棟看護

師長の渡辺百合子先生、雪うさぎ10西の会押部榮哉先生の演題発表、ディスカッションも行われました。

イベント終了後は体中がピキピキしていました。参加した皆様、歩き続けた皆様、本当にお疲れ様でした。



